

大学の窓から

…市民活動、ボランティアのステップアップを目指して…

連載3

強い結びつきと弱い結びつき、どちらが強い？――

「^{ちゆうたい}弱い紐帯の強さ」という面白い話があります。これは、M.グラノヴェッターが1973年に発表した論文のタイトルにもなっていますが、弱いのに強いとは、なんとも不思議な感じがしますね。しかし、ここには、情報を収集（あるいは発信）する力を高め、みなさんの活動をステップアップするための大切なヒントが含まれています。弱い結びつきが重要であるといわれるのはどうしてなのでしょう。

みなさんの周りでも、「友達の友達は友達だ」というようなつながりが多くあると思います。図1のように、Aからみて、つながりのあるBはCともつながりがあって、AはそのCともつながりがある場合に、ネットワークを表す図は、3点がそれぞれ結ばれた形で表すことができます。このつながりを表す線は、ネットワークの用語で紐帯といわれるものですが、この「友達の友達は友達だ」のようなときに、その紐帯は**強い紐帯**ということになります。これが、図2のように、AとB、BとCにはつながりがあるけれども、CとAにはつながりがない場合には、図1の紐帯と比べて、**弱い紐帯**ということになります。友達の友達までは友達ではない、というような場合です。紐帯という用語は馴染みがないと思いますので、ここからは、結びつきと言い換えてお話ししていきたいと思います。

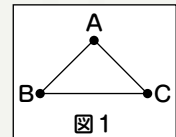


図1

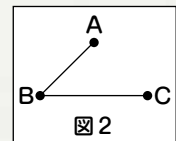


図2

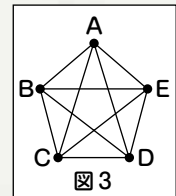


図3

結びつきの強さをこのように考えると、例えば、5つの点から構成されるネットワークが、全て強い結びつきで結ばれているときには、図3のように表すことができます。このようなネットワークでは、どれか1つの結びつきが無くなっても、他の点を1つ経由することで結びつきが保たれています。

それでは、図4のように、強い結びつきで結ばれたA～Eのネットワークと、同じく強い結びつきで結ばれたF～Jのネットワークがあり、それがEとGの結びつきによって結ばれたネットワークを考えます。この中で、どれか1つの線（結びつき）を消したときに、ネットワーク全体が最も大きく変わってしまうのはどの線でしょうか。それは、EとGの間の線ですね。これが無くなると、A～EのネットワークとF～Jのネットワークの間のつながりが全て無くなってしまいます。そして、このEとGの間の線は、結びつきの強さでいえば、他の線と比べて弱い結びつきであることもご理解いただけると思います。強い結びつきの方が重要であると思われがちですが、実は、**弱い結びつきの方が強い影響力をネットワーク全体に対して持っている**ということになります。

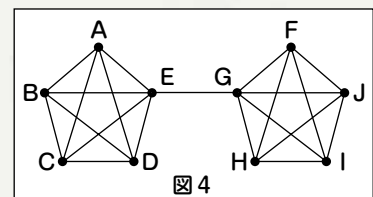


図4

これは、ネットワークとネットワークの間をつなぐ**架け橋となるような結びつきが、多く**

の場合、弱い結びつきであり、この弱い結びつきによって、ネットワークはより拡大していくと考えるとわかりやすいかもしれません。そして、**強い結びつきの範囲内だけでは得られないような情報が、弱い結びつきの先から得られる情報には含まれている**ことがよくあります。図4を使って、1つの実例を紹介しましょう。数年前、ひどい腰痛に悩まされた私（図4のE）は、日常的に顔を合わせる機会が多い職場の同僚（A～D）からいくつかの整形外科や整骨院などを教えてもらいましたが、どこに行っても改善せず、ある病院では入院・手術しかないといわれました。洗髪もつらい状況でしたので、床屋さん（G）へ行くと、床屋さんのお客さん（F、H～J（お客さん同士は図のように結びついてはいないと思いますが））からの話では、宮崎で腰痛といえ、〇〇と△△が良いといわれてますねえ、と教えてくれました。その1つへ行ってみたところ、見事に改善し、手術を回避するとともに、弱い紐帯の強さを身をもって実感することができたのでした。

前号でお話した、目から鱗が落ちるような情報や意見が、たまにしか話をしない人（弱い結びつきやさらにその先）からもたらされることが多いということも、**弱い結びつきのもつ架け橋としての力**に注目すると納得がいくのではないのでしょうか。みなさんの活動を展開するにあたって、強い結びつきもちろん大切ではありますが、弱い結びつきを架け橋として、ネットワークを広げていくことが重要となるということができるといえるでしょう。

【今回の参考・引用文献：安田雪『ネットワーク分析―何が行為を決定するか―』新曜社、1997年、134～136ページ】



宮崎大学 教育・学生支援センター准教授
高橋 利行(たかはし としゆき)

著者プロフィール

専門は生涯学習学。人々の生涯学習を支援するための情報提供の方法を研究。出身は岩手県で、平成16年より宮崎大学に着任。主な著作に、『地域をコーディネートする社会教育―新社会教育計画―』（分担執筆）（理想社、2015年）や『生涯学習概論―生涯学習社会への道―（増補改訂版）』（分担執筆）（理想社、2014年）など。